

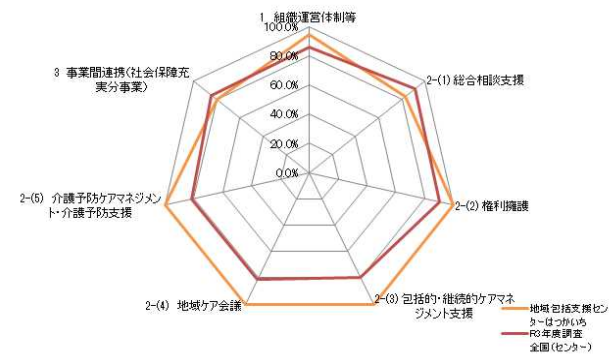
地域包括支援センターの評価指標・令和3年度自己評価

①センター評価（各地域包括支援センターが業務の実施状況について自己評価を行ったもの）

各センターと全国平均の比較

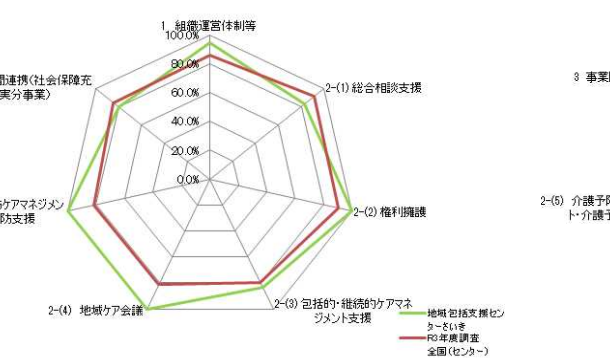
【地域包括支援センターはつかいち】

R3年度



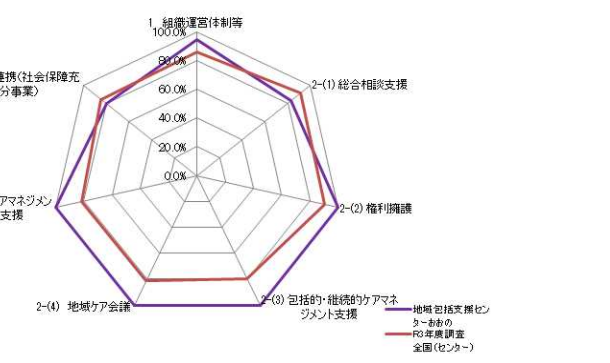
【地域包括支援センターさいき】

R3年度

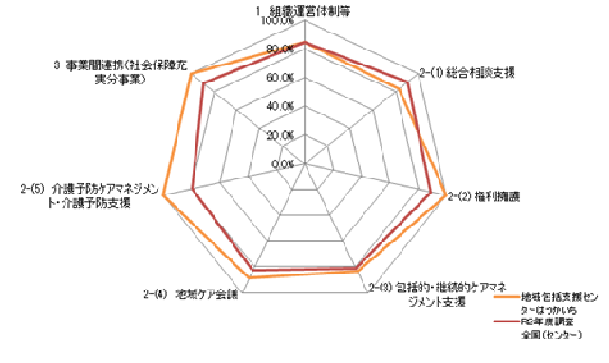


【地域包括支援センターおおの】

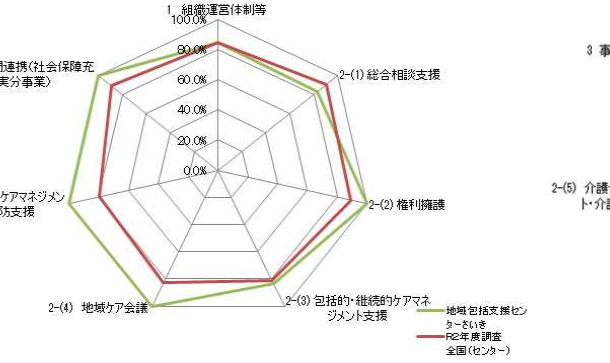
R3年度



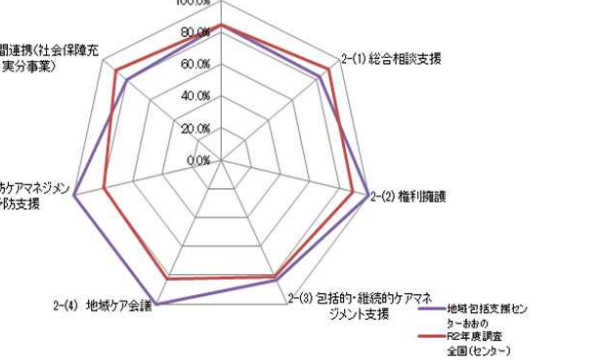
R2年度



R2年度

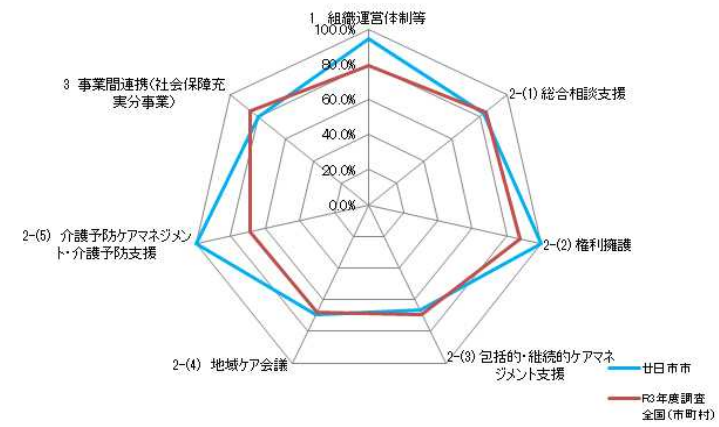


R2年度



②市町村評価（市町村が管内の地域包括支援センターとの連携体制等について自己評価を行ったもの）

廿日市市（地域包括ケア推進課）と全国の比較



1. 本市の地域包括支援センターの特徴

- ・ 権利擁護については、成年後見に係る事務マニュアルの作成に取りかかっており、全てのセンターで同じように対応ができるように整理している。また、施設職員に向けた虐待防止や成年後見制度の研修を企画し、より多くの人が受講できるようオンデマンド方式を取り入れた。
- ・ 地域ケア会議については、地域包括支援センターはつかいちにおいて評価が悪く、計画的な開催をすることが課題であったが、昨年度は各センターで年間計画を立てて取り組むことができた。
- ・ 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援については、自立支援・重度化防止に資するケアマネジメントに注力し、研修等を継続して行っている。
- ・ 3 事業間連携(社会保障充実・実分事業)については、昨年度より評価が下がっている。医療機関の地域連携室との連携について評価していたが、昨年度は新型コロナウイルス感染症予防の関係で医療機関への出入りが制限され、退院時カンファレンス等を依頼しても開催ができなかったため評価を下げている。

2. 現状で取組が進んでいない業務とその要因

(1) 総合相談支援事業

- ・ 相談の終結について整理することが課題となっており、昨年度、各センターのリーダー会議で検討したが、様々な事例があり統一した目安の設定まで至っていない。今年度も継続して検討を進める必要がある。

(2) 包括的・継続的ケアマネジメント支援

- ・ 介護支援専門員からの相談内容について、平成30年度より内容を整理・分類したうえで件数を把握しており、昨年度で3年目となった。相談内容を整理し、介護支援専門員を対象とした研修等に活用することが必要である。
- ・ 新型コロナウイルス感染症で外出する機会が減ったことも要因となり、介護保険認定率が0.5ポイント高くなり17.6%となった。アセスメントをしっかりと行い、短期集中型サービス等を取り入れながら、低下した機能回復を目指すケアマネジメントを強化する。

(3) 地域ケア会議

- ・ 地域ケア会議については、今年度も各センターで年間計画を立てて取組を進める。また、個別ケア会議での課題を整理し、地域課題として検討するとすることが十分にできていない。

3. 今後の取組

- ・ 相談事例の終結の目安について、市とセンターでの協議を継続し、整理・設定する。
- ・ 昨年度作成した、地域ケア会議実施マニュアルについての研修を行い、個人情報保護に関し、職員への周知を図る。また、個人情報持ち出し時のルールを策定する。

